



看護栄養学部だより

公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

発行 山口県立大学看護栄養学部 〒753-8502 山口市宮野下 TEL 083-933-1450 FAX 083-933-1483
山口県立大学：<http://www.ypu.jp/> 看護栄養学部：http://www.ypu.jp/index.php?M_ID=6

第5号

学習は、目的か、手段か？



山口県立大学 看護栄養学部長 長坂 祐二

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。将来の看護師、管理栄養士として、夢をふくらませてこられたことと思います。大学は、文字通り「大いに学ぶ」ところです。看護学科、栄養学科の教育課程は、それぞれ看護師、管理栄養士になるために必要な知識、技術、態度を身につけるために構成されています。皆さんの夢を実現するために、それぞれの授業でしっかり学習することが大事です。さて、学習は、夢を実現するための手段でしょうか、それとも学習すること自体が目的でしょうか。学習の過程をたどりながら考えてみましょう。例えば、「ヒアルロン酸を飲むことは、膝の痛みの改善に有効か？」という疑問があったとします。この疑問に答えるために学習を始めます。皆さんは何を、どのように学習しますか。もし、学習が目的を達成するための手段であれば、疑問に答える情報を最短距離で収集することが有効です。この場合、「有効かどうか分かる」ことが目的ですから、有効であるかどうかを記載した臨床試験の結論の部分をもれなく収集して判断すればいいことになります。それでは、学習することが目的である場合は、どのような学習になるのでしょうか。まず、ヒアルロン酸について、自分が知っていることと知らないことを明らかにし、知らない知識を収集します。次に、ヒアルロン酸の関節での役割、消化管からの吸収、体内での合成、代謝、排泄など「有効かどうか」を判定するために必要な知識を再構成し、体系づけます。その上で、これまでの臨床試験の結果を判断することになります。この2つの学習方法の違いは为什么呢。学習を手段と考えた場合、解答を素早く出すことができますが、後に何が残るのでしょうか。もし、新しい臨床試験の結果が出て、これまでの考え方が否定されると、学習に使った時間と労力が無駄になってしまいます。一方、学習を目的と考えた場合、新しい知見によってこれまでの考え方が否定されたとしても、学習の過程で身につけた知識の体系は残り、新しい知識を加えて、さらに発展させることができます。孔子は、「これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」（雍也篇）といっています。学習を、手段として仕方なくやるのではなく、目的として、興味を持って取り組み、遠回りや寄り道をしながら知識を得ることを楽しんでください。

第10回 山口看護学会

(旧 山口県看護研究会)

日時 平成23年10月8日(土) 10:00~16:00
会場 山口県立大学 講堂
内容 講演「大規模災害における
赤十字国際医療活動」

日本赤十字社和歌山医療センター国際救援部
部長 藪本 充雄 先生

食育プログラム開発チーム ～食育戦隊ゴハンジャー～

本チームは、栄養学科の学生が主体となり、平成18年度より地域の児童を対象とした食育活動を行っています。これまでの活動に対して、山口県立大学同窓会より「桜園会奨励賞」、生活協同組合コープやまぐちより「女性いきいき大賞 コープやまぐち奨励賞・学生の部」、山口県立大学より「学生表彰」を頂きました。

看護学科長からのメッセージ



看護教育の 大きな転換期

看護学科学科長
中村 仁志

新年度が始まり、新たな学年で学生たちは学習に取り組んでいます。新入生はやっと大学生活に慣れてきたようで、緊張した様子から本来の自分の顔を取り戻したようです。

看護教育では、保健師助産師看護師法の一部改正（H21）により、保健師・助産師養成のための教育期間が「6ヶ月以上」から「1年以上」に延長されました。それを受けて保健師助産師看護師養成学校指定規則の一部改正が行われ、それぞれ修得単位が「23単位」から「28単位」に増えました。

改正の目的は、看護師教育での看護実践能力教育の充実と保健師、助産師の専門能力のレベルアップです。この改正にともない、今年度中に全看護系大学がカリキュラム変更と共に保健師・助産師の養成の方法について変更承認申請を行うこととなっています。

看護学科でもこの目的に沿って、看護師・保健師・助産師の養成のためのカリキュラム改正に向けて検討を行い、平成24年度より新たなカリキュラムで教育をスタートさせよう考えています。大きな改正として、助産師養成を4年の教育から外出しを行い、1年制の別科（大卒・専修学校卒受け入れ）を立ち上げる方向で準備を進めているところです。

近年の保健・医療の進歩へ対応するために2～3年でのカリキュラムの改正が行われており、これは、看護教育が大きな転換期に来ていることを示しています。今後、こうした動きに合わせて、社会の健康に対するニーズに答えられる看護学科として日々、進歩していかなければなりません。

看護学科では、学生一人ひとりにきめ細かな教育、指導を心がけながら、今後とも社会のニーズに答えられる人材を輩出するよう努力し、発展していきたいと考えています。

皆様の暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

栄養学科長からのメッセージ



栄養学士の 誕生に想う

栄養学科長
乃木 章子

平成19年度に改組再編された看護栄養学部は昨年完成年度を迎え、この春、栄養学科では「栄養学士」第一号以下46名を送り出すことができました。創立70周年を迎える本学において多くの管理栄養士を輩出してきた栄養学科にとって、新たな時代の到来を実感する学位授与式となりました。

未来に向かっての歩みを進める上で、これまでを振り返ることは重要です。栄養学科では、昨年度大学全体で取り組んだ将来構想検討の中で、これまでの教育事業検証のために、さまざまな角度から調査を実施しました。その中で、卒業5年以内の卒業生の皆さんに、現在栄養学科で検討中のディプロマポリシー（学位授与方針）、つまり卒業時に身につけておいて欲しい知識やスキルについての習得度を自己評価してもらいました。結果を一部紹介しましょう。12項目のスキルについて、「身についた」「どちらかという身についたと思う」と自己評価した合計割合は平均6割程度ありましたが、「身についた」と明確に自己評価したスキルとその割合は、基礎的知識、多職種と協働する力、コミュニケーション力が高く、一方で知識・技術を更新する力、栄養管理・教育の実践力、論理展開力、プレゼンテーション力、問題解決力でやや低い傾向が認められました。社会人として、専門職として、前者は基本的に必要なスキルであり、後者はさらに発展的でより高度なスキルでもあります。在学生の皆さんは現在の自分をどう自己評価されますか。

栄養学科では、皆さんが自信を持って社会で活躍できるように、在学中にこれらの力を身につけ高められる教育システムづくりに取り組んでいます。皆さんも自分の描く「栄養学士」の将来像に向かって、一日一日を大切に収穫の多い大学生活を送って欲しいと思います。

看護栄養学部学生近況報告

栄養学科1年 松原 あつみ

看護学科1年 高路 奈保

山口県立大学に入学してから、はや3か月が経ち大学生としての生活リズムにも慣れてきました。私は大学に入学し、多くの大切なことに気づくことができました。1つは勉強ができる喜びです。夢を叶えるために学べるということは、大きな喜びだと心から思えるようになりました。先生方が話してくださる現場のことを聞く度、自分が目指している場所におかれる責任の重さを感じます。2つ目はこれまでどれだけ多くの人たちに支えられて生きていられるのかということです。地元の家族や友人、ここに来て出会えた仲間や先生方、あげればきりがありません。高校生までは「人は一人では生きていけない」という言葉の意味は分かりませんでした。今ならわかります。地元を離れてから、周りにいてくれる人たちの存在の大きさに改めて気づくことができました。これまで以上に大切にしていきたいと思います。これから4年間、今の気持ちを大切に、仲間と協力し互いに高め合っていきたいです。



山口県立大学に入学して、約3か月が経ちました。最近だんだんと忙しくなってきた、時間があっという間に過ぎていきます。高校での寮生活の経験から、一人暮らしには早い時期から慣れましたが、大学生活はまだまだ不慣れなことが多く、新しい経験の連続です。

先日、水無月祭が開催されました。体育の部は、ラジオ体操に始まり、綱引き、玉入れ、騎馬戦、リレーと競技が進んでいきました。惜しくも2位という結果でしたが、栄養学科だけでなく、看護栄養学部として団結することができたと思います。

最近、忙しいことを理由に「もうここまででいいか」と自分の限界を自分で決めてしまいそうになることがあります。でも、せっかくこの大学に入学したのだから、大きく成長したと言える4年間にしたいです。今の目標は「自分に負けない」です。大学生活は始まったばかりです。1日1日を大切に、毎日が充実した日になるように頑張りたいと思います。



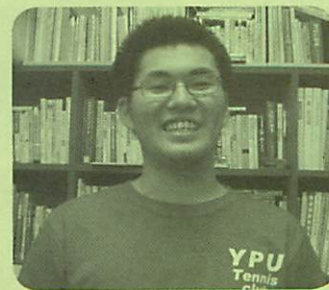
看護学科2年 堀川 晴香

山口県立大学に入学して早いもので1年が経ちました。この春、私は2年目の寮生活を迎え、学部内外問わず寮でもたくさんの後輩ができました。そして、後輩の手本となるよう先輩としての役割を果たしていきたいと感じています。授業は1年生のころに比べ学習分野細かくなり広がって、専門的な内容となりました。そのため、毎回の授業で新たな知識が増え、少しずつ将来像に近づいているという実感を持つことができます。1年生後期から始まった講義・演習ではベッドメイキングや体位変換など学びましたが、2年生では清拭や洗髪など直接患者さんに関わる援助を学んでいます。看護援助が、より実践的なものとなり6月から始まった基礎看護学実習Ⅱでは、これらの援助を実際に患者さんへ行っています。しかし、援助を行っていく中で、知識や技術不足を感じます。患者さんに喜んでもらえるような援助ができるよう練習し、2年生全員が一丸となり共に成長していきたいです。



栄養学科2年 柴田 理

大学に入学して1年が経ちました。大学生活にも慣れ、慌ただしい毎日を送っています。近況報告ということなのですが、栄養学科のイベントや課外活動などの報告は他の人に任せて、これをきっかけに自分のやりたいこと(夢)について考えました。夢は病院の管理栄養士として働くことです。「病院栄養士になりたい」という弱い気持ちではなく、絶対になります。なぜ病院かというと、以前に何か印象深いエピソードなどがあったのではなく、一言で言うと直感です。自分でもよくわかりません。これから考えます。就職のことなど先輩や先生方から様々な話を聞いて、栄養士には無限の可能性を知り、他の進路へと気持ちが揺らぐことはなかったとは言えませんが、決めた以上はそれに向かって進もうと思います。私の夢への道はスタートしたばかりで、初心を大切にしながら思いを強く持って夢が実現できるよう、この道を一步ずつ確実に進んでいこうと考えています。



大学生活も折り返しの年です。早いもので3年目を迎え、ゼミ選択の時分となりました。各自が興味ある分野を探しながら、私たちは、2年次までの基礎教育を基盤として各領域のより専門的な知識と技術を学んでいます。技術面では、点滴静脈内注射や吸引といった臨床でよくみられる技術の演習が多く行われ、患者さんの安全や安楽のためにいかに適切な手技が必要か実感する毎日です。また、看護の対象理解という点では、実際に出身市町の統計や住民の声から地域について診断し、看護の対象は地域の生活者であること、看護では地域の特性や状況を顧みる必要があることを改めて感じています。6月からは初めての領域別実習が始まり、外来での看護師の役割など基礎看護学実習とはまた違った学びを得る日々です。後期には、急性期看護の実習も始まります。まだまだ援助に未熟な部分がありますが、自己研鑽に励み、ご指導いただきながら少しずつ成長していきたいと思っています。



看護学科編入3年 岩下 未乃璃

熊本から関門海峡を越えて山口にきました。一人で暮らすことは、はじめてではありませんでしたが、やはり見知らぬ土地での一人暮らしは不安がいっぱいでした。しかし、入学後すぐに同じ編入生同士仲良くなり、また授業が始まってからは学部生の皆さんとも交流ができて、今は楽しく充実した日々を過ごしています。大学生活は専門学校時代とは違い、自由に選択できる一般教養科目で看護を専門としない学生の皆さんとも交流ができ、自分の抱く看護観に新しい風を吹き込んでくれる感じがしています。また、専門科目では必須の履修科目や、これまで学習が充分でなかった科目も再度学ぶ機会を作りたいです。加えて、後期から始まる文献講読や4年生になってからの専門研究で、自分自身で物事を探求する力をつけていきたいと思っています。2年間、充実した学生生活を送れるよう、勉学だけではなく、様々な活動に積極的に取り組み、多くの仲間を作って楽しい山口県立大学の生活を築いていきたいと思っています。



3年生になり、1・2年生のころに比べてより専門的な授業や実習が増えてきました。最近、就職など自分の将来についてよく悩むようになりましたが、私はまだ将来の自分に何となくの形しか見えていません。だからこそ学生である今の時間にできる限りのことをしていこうと思い、授業にサークル、アルバイトに自動車学校とどれもうまく両立させて大学生活を送っています。

私は料理サークル・ヤムヤムの部長を務めさせてもらっています。ヤムヤムは3年前にできたまだ新しいサークルで、部長として引退するまでに何か形を残したいと思っていました。そこで、サークルのみんなで考えた弁当を「バランス弁当コンテスト」に応募したところ入選することができました。大学HPや新聞記事にも掲載され、多くの人にヤムヤムのことを知ってもらえて、部長としての役目を少しは果たせたかなと思っています。まだまだ大学生活は続きますが、将来の自分にとって少しでもプラスになるように、今の自分ができていることを精いっぱいしていきたいと思っています。



栄養学科編入3年 黒岩 遥

山口県立大学に入学して早2か月が経ちました。入学した当初は、途中からみんなの輪に入っていくことに対して、不安もたくさんありました。しかし、他の編入生ともすぐに打ち解けることができ、同学年になる3年生もあたたかく迎え入れてくれたので、だんだんと緊張もほぐれてきたように思います。勉強面では、短大よりも専門的で深い内容になるので「勉強についていけるだろうか」と思っていました。実際、演習や実験などでは戸惑うこともありますが、一緒に編入した仲間と励まし合ったり、先輩方にアドバイスをいただいたりして、楽しみながら充実した生活を送っています。

また、大学にはサークルやプロジェクトなどが数多くあり、様々なことに挑戦することができるというのが最大の魅力だと感じました。自分の好きなことややりたいことを見つけるための機会がたくさんあり、短大のころよりも自分の考え方が広がったように思います。自分の固定観念にとらわれず、いろいろなことに挑戦し頑張っていくつもりです。



私は看護学科4年の梅野佐妃です。私が山口に来てとうとう最終学年の4年生になりました。今4年生は、精神・母性・小児の実習中です。1年生の基礎看護学実習Iから始まり、最後の実習だと思ふと時間が過ぎるのは本当に早いと実感しています。また実習をすると同時に私たちは就職活動も同時に進めています。毎日が自分との戦いで、きつくないといたら嘘になりますが、自分の夢に向かって頑張る日々は非常に充実していますし、今過ごしている時間は一生忘れることができない時間になるだろうと思います。私がここまで頑張ることができるのは、右も左も分からなかった私に看護学を教えてくださいました多くの先生方がいらっしやったこと、そして何より、仲間がいつも私を支えてくれるからだと思います。大学生活で私が一番自慢できることは、今の仲間に出会えたことです。山口県立大学で過ごす時間もあと少しです。でも、これからたくさん県大での思い出を作っていこうと考えています。



看護学科編入4年 藤長七美

看護学科に編入して、1年余りが過ぎました。私たち編入4年生は全員で12名です。編入当初は、大学生活を上手くやっつけられるか不安に感じることもありましたが、現在では、学習や困っている事を相談し合い、将来の目標について語り合えるくらいお互いのことを理解できるようになりました。今は、卒業論文を書くための計画作成や実施に取り掛かっています。また、就職活動も徐々に進めています。つまずいたり悩んだりすることも多いですが、編入生同士励まし合って取り組んでいます。編入生は看護師資格を既に持っているため、来年の2月には保健師国家試験を受験することになります。昨年度は、これまでに経験して来なかった保健所等で地域看護の実習を行い、看護に関する考え方の幅が広がったと感じています。実習での学びを踏まえ、国家試験に全員が合格できるように支え合っ



山口県立大学に入学して3年が経ち、気がつけば4年生になりました。4年生では、講義内容も国家試験対策が多くなり、各研究室での卒業研究にもそれぞれが取り組み出していて、自分たちが卒業へ向かっているのを実感させられます。

卒業後の進路についても、自分の就職希望先を決めた人や就職先が決まった人、公務員試験を頑張っている人、進学する人など、皆それぞれ同じ道ではありませんが、目標の実現に向かって、頑張っています。私はまだ進路を決められずにいるので、焦りや不安もありますが、何とか乗り越えて目標を達成しようと思います。

4年生となり、講義数が以前より減り、この1年をどう過ごすかが、これまでより増して自分次第になったと感じます。しっかりと自発的に国家試験の勉強に取り組み、国家試験に合格して、社会に出て活躍することで、4年間お世話になる先生方や、支えてくれた家族や友達、これまでお世話になった方々への恩返しとしたいと思います。



栄養学科編入4年 酒井 愛

栄養学科に編入学して1年が目まぐるしく過ぎ、いよいよ最終学年の4年生になりました。短期大学の時と比べ、より専門的な授業や学生の熱心な姿勢に触発されながら、学生生活を送っています。授業は異なる学年と一緒に受けることが多々ありますが、親切に接してくれ、周りに助けられながら取り組んでいます。

4年生では、卒業研究や国家試験、就職活動など忙しくなってきます。卒業研究では、夏休みを利用して周防大島に調査に行く予定です。今は、それに向けて参考文献など資料集めに没頭しています。その合間を縫って、私の所属する弘津先生のゼミでは、毎月1回食事会を行っています。記念すべき第1回目は、広島風お好み焼きを作りました。広島出身の私でも自分で作る機会がなく不安でしたが、うまく出来上がりみんなで楽しく食べました。勉強以外にも、このような先生や仲間たちとの交流も大切な時間です。

この先困難にぶつかる時もあると思いますが、励ましあいながら乗り越え、残りの学生生活を無駄にしないように目標を明確に持ち、一日一日を大切に過ごしたいと思っています。



卒業生は今…



平成16年度 看護学科卒業生
総合病院 山口赤十字病院勤務

石田里美

山口県立大学を卒業し、看護師として働き始めて7年目となりました。卒業研究で糖尿病に関する研究を行ったこともあり、糖尿病患者を多く受け入れている内科病棟に配属されました。糖尿病は自己管理が非常に重要な疾患で、患者さんにとっては生活そのものが治療といえます。しかし、正しい生活を実行・継続するのは容易いことではありません。そのような糖尿病患者さんに対し、少しでもよい生活が退院後に送れるよう、一緒に解決策を考え、正しい知識の提供と生活を変える動機づけができるよう関わってきました。その中で築いた患者さんとの関係は、私にとってかけがえのないものとなっています。県立大学卒業後7年目を迎えた今は、緩和ケア病棟に勤務しています。緩和ケアの場は、悪いから行く最後の場ではなく、患者さんが「いのち」を生きるために少しでも良い時間・空間・医療環境などを提供する場です。患者さんの考えや価値観を尊重しながら、その人らしい生活を支える看護が提供できるよう、これからも取り組んでいきたいと思っています。



平成22年度 栄養学科卒業
山口県社会福祉事業団
肢体不自由児療護施設 華の浦学園

廣中麻未

山口県立大学を卒業し、栄養士として働き始めて3ヶ月が経ちました。まだまだ慣れないことばかりで、毎日必死に仕事をしています。

私の勤務している華の浦学園は、肢体不自由や自閉症などの障がいを持つ方が入所されています。ひとりひとり障がいの程度や種類は異なり、嚥下が困難な方や肥満の方、逆に痩せすぎている方など、本当にさまざまな方がいらっしゃいます。様々な工夫をして、すべての皆様がより楽しく安全に食事ができるように努めています。新米とはいえ、栄養士は一人しかいないため、保育士や介護職員などたくさんの方が頼りにしてくださり、責任感とともにやりがいを感じ、充実した日々を送っています。

障がいを持つ方の栄養ケアについては大学で学ぶ機会がなく、働き始めるまではとても不安でした。しかし調理員をはじめとした他の職員に支えていただき、不安は少しずつ解消されてきました。恵まれた環境で栄養士として働き始められたことに感謝しています。

平成22年度卒業生進路状況 看護学科

事項	人数		
	計	県内	県外
進学	2	1	1
就職	53	29	24
(内訳)			
看護師	41	23	18
保健師	5	1	4
助産師	5	3	2
養護教諭	1	1	0
教員	1	1	0
合計	55	30	25

卒業生数 55名

平成22年度卒業生進路状況 栄養学科

事項	人数		
	計	県内	県外
進学	2	1	1
就職	43	17	26
(内訳)			
病院施設	17	7	10
福祉施設	8	3	5
保育園	3	2	1
給食委託会社	5	1	4
行政栄養士	1	0	1
学校栄養士	1	1	0
栄養教諭	1	0	1
食品衛生監視員	1	1	0
家庭科教諭	1	0	1
公務員(一般職)	1	1	0
食品企業	2	0	2
一般企業	2	1	1
合計	45	18	27

卒業生数 45名

看護学科学生数

看護学科	4年生	64名
	3年生	59名
	2年生	56名
	1年生	51名

平成23年4月1日現在

栄養学科学生数

栄養学科	4年生	48名
	3年生	46名
	2年生	41名
	1年生	43名

平成23年4月1日現在



*****平成22年度実験実習費預かり金決算報告*****

【看護学科】

(学生から徴収する教育研究充実費)

<収入の部>

(単位：円)

費目	合計	1年生	2年生	3年生	4年生	3年編入	4年編入	合計
徴収金 (一人当徴収額) (後期復学者の徴収額)	6,350,000	1,665,000 (30,000) (15,000)	1,020,000 (20,000)	1,545,000 (30,000) (15,000)	1,680,000 (35,000)	240,000 (20,000)	200,000 (20,000)	6,350,000
前年度からの繰越金	11,040	2,700	2,459	2,507	2,314	578	482	11,040
雑収入(受取利子)	823	202	183	187	172	43	36	823
合計	6,361,863	1,667,902	1,022,642	1,547,694	1,682,486	240,621	200,518	6,361,863

<支出の部>

(単位：円)

費目	合計	1年生	2年生	3年生	4年生	3年編入	4年編入	合計	備考
臨地実習費	1,996,415	743,908	234,619	771,100	185,899	51,772	9,117	1,996,415	実習要項他
学習援助費	2,407,598	321,887	604,349	317,700	984,867	56,433	122,362	2,407,598	教材実費他
学生返金 (一人当返金額)	1,937,700	599,200 (10,700)	178,500 (3,500)	452,400 (8,700)	508,800 (10,600)	130,800 (10,900)	68,000 (6,800)	1,937,700	
次年度繰越金	20,150	2,907	5,174	6,494	2,920	1,616	1,039	20,150	
合計	6,361,863	1,667,902	1,022,642	1,547,694	1,682,486	240,621	200,518	6,361,863	

*教育研究充実費は実費弁済として徴収しておりますので各学年徴収額が異なります。

*1年生は、臨地実習費に小児感染症検査料・聴診器代他が含まれます。 *返金後の端数は繰越金としています。

【栄養学科】

<収入の部>

(単位：円)

費目	1年生(43名)	2年生(41名)	3年生(49名) (編入学生を含む)	4年生(46名) (編入学生を含む)	合計
徴収額 (学生一人当たり徴収額) (履修状況による調整額*)	335,400 (7,800)	1,153,600 (28,100)	514,500 (10,500)	1,454,400 (30,000) (74,400)	3,457,900
利子					449
合計					3,458,349

<支出の部>

(単位：円)

費目	1年生(42名)	2年生(41名)	3年生(49名) (編入学生を含む)	4年生(46名) (編入学生を含む)	合計
実験実習費支出額	204,989	1,070,292	442,702	600,643	2,318,626
学生返金額# (学生一人当たり返金額) (履修状況による調整額*)	130,518 (2,990) (7,928)	83,410 (2,030) (180)	71,923 (1,350) (5,773)	853,872 (16,940) (60,372)	1,139,723
合計	335,507	1,153,702	514,625	1,454,515	3,458,349

#利子を含む

履修状況による調整額*は、休学、学年進行計画、選択科目等の状況による個別調整額を合計で示した。

4年生の返金額は、専門研究(卒業研究)の内容により異なるため学生一人当たりの平均額を示した。

2011年3月31日 看護栄養学部長 長坂 祐二

新任教員自己紹介



看護学科 山下 満 枝

5月1日付で看護学科に着任しました山下満枝と申します。今は母性看護で臨地実習での教育に携わっていますが、担当科目は、助産学です。

私は、山口県立中央病院（現県立総合医療センター）に看護師・助産師として勤務し、この間山口県立衛生看護学院で助産師課程・看護師課程の教育に従事し、平成22年3月に山口県立萩看護学校を最後に退職しました。

この度、平成24年度より別科助産専攻が開設予定となることで、助産師課程の教育に携わることになりました。生命誕生に携わる感動とすばらしさ、そして女性が健やかに生み、健やかに育てることができるようになり、母子と女性の健康支援に関わる助産の魅力をこれまでの臨床経験や専門学校での看護師・助産師教育経験を生かして分かち合え、伝えていくことができればと思っています。

大学教育では新人ですので、不慣れなところがありご迷惑をおかけすることもあると思いますが、皆様と一緒によりよい助産を考え、実践力だけでなく心豊かで自律した助産師の育成を目指していきたく思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。



看護学科 堀河 美和

4月1日付けで看護学科に基礎看護の助教に就任いたしました、堀河美和と申します。担当させていただく科目は基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲなどです。

大学卒業後は大阪の病院で血液疾患患者の看護にあたってきました。血液疾患はクリーンルームでの治療、他領域には見られない多様な化学療法などが行われ、異常の早期発見と副作用のマネジメントが看護師の大きな課題だと感じていました。クリーンルームという限られた治療施設で患者の生活の質をどこまで保てるのかを常に考えていました。患者のQOL向上にむけ生活に密着した研究がしたく、大学院では血液疾患の患者の口腔ケアについて看護師がどのように実施しているかの実態調査を行いました。その結果からはまだまだ、現場では惑いや不安を抱えたまま看護行為を実施しているという側面もわかりました。

今後は少しでも現場の看護職・医療職が不安や戸惑いを解消できるように、基礎教育においてより早い段階からエビデンスに基づいた正しい看護技術について学生自身が考えながら習得できるようにサポートしていきたいです。スタッフ全体で多職種とも力を合わせて協力をできるような人材の育成をしていきたいと考えています。しかし、教育の現場に立つのは初めてです。わからないことが多くありますので、多くの先生方にご指導賜りながら日々精進したいと考えております。今後とも何卒よろしくお願いいたします。



栄養学科 三上 奈々

4月より栄養学科の助手に着任致しました。担当は基礎病態学実験、管理栄養士基礎演習、生化学実験等です。

出身は北海道で、今年の3月まで北海道大学大学院水産科学院に所属し、水産食品の栄養機能性を研究してきました。中でも、水産物の“ホヤ”は複数の機能性成分（EPAやDHAといった脂肪酸、タウリン、赤い色素成分であるカロテノイド）を含むことに注目し、それらの組み合わせによる糖尿病予防・改善効果を調べてきました。しかし、このような基礎研究はモデルを用いた実験によるものであり、研究を応用につなげていくにはヒトに対する効果を検討しなければならず、公衆栄養や臨床栄養等、実践分野と連携をとる必要があります。その架け橋としての役割を担うのは、実際にヒトの栄養と深く関わる管理栄養士であると思いました。私は管理栄養士の現場を知らないため、栄養学科で公衆・臨床系分野のことも少しずつ学ばせて頂きながら、食品の機能性を追究していきたいと考えています。

また、私自身学生時代に、多くの先生方との関わりの中で様々な分野への興味や関心を引き出して頂いたと感じています。今度は助手の立場として、学生さん達に幅広い視野を持ってもらえるよう、微力ながらサポートできればと思います。

まだまだ不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、皆様からご指導を頂きながら日々努力していく所存です。何卒よろしくお願いいたします。



看護栄養学部は、社会のニーズに応えられる人材の育成を目指し、新たな進化を遂げようとしています。今後とも温かいご支援をお願い申し上げます。

編集委員 井上・島田・田中愛・丹・藤本・堀河